

「地方の時代」の先駆・江戸時代の ふるさとから元気をもらう

地域づくりに、郷土学習に「江戸時代 人づくり風土記」

手本のない時代の 指針を江戸に見る

農文協はかねてから江戸時代に注目し、江戸時代に
関係する全集を四冊刊行し
てきました。2、3面参照。
そのうちの「江戸時代
人づくり風土記」は、都道
府県ごとに一巻をあてた全
50巻の作品で、その企画意
図はつぎのようなところに
あります。

高度成長期が終わったわ
が国にとって、もはや世界
をみまわしても手本にすべ
き国はない。手本のない時
代には歴史をふりかえって
指針を見出すほかはない。

高度成長期が終わったわ
が国にとって、もはや世界
をみまわしても手本にすべ
き国はない。手本のない時
代には歴史をふりかえって
指針を見出すほかはない。



千葉の山武杉の美林(杉の生えない山を松と杉の二段
林仕立てで見事な山林に)

に人と人、人と自然とはど
んなつきあい方をしていた
のだろうか。それを知るこ
とで、現代の人材の育成に
役立てたいと思うからであ
る。

江戸時代の人と自然の関
係は林業技術にしても土木
技術にしても、それだけ独
立していたのではありません
。ふるさとという暮らし
の場で、相互に関連しなが
ら成立していました。そう
なつてきた時代を暮らしの全体像
を描くために都道府県別編
集という手法が必要でし
た。

ふるさとの江戸時代を浮き 彫りにする五つのテーマ

そういうふうなので、
この「江戸時代 人づくり
風土記」は各県版共通につ
ぎの五つの章で構成されて
います。

(1) 地域の自然を生かして
生き、ときには政治の圧力
と闘った「暮らしの仕組み
づくり」にかかわるテーマ
を集めた「自治と助け合い」
の章。新田開発や治水・植
林、村の自治の仕組みと一
揆、飢饉や天災の際の助け
合いなどを描きます。

(2) 地域経済の安定・発展
を願い、特産の振興や新ビ
ジネスを展開した先人の努
力を描く「生業の振興と継
承」の章。

(3) 世界的にみてトップレ
ベルだったと評価される教
育を、学校と地域が一体と
して行ってきた「教育の
発展」の章。

(4) 学校・地域とともに「生
きる力」を培った家族と家
族のあり方を描いた「子育
てと家族経営」の章。各地
各層の人々が後世に伝える
生き方の指針を、多様な家
族に即した個性的な家訓や
書簡から探ります。

農文協

江戸時代を読む③—農と食の文化誌

江戸・東京 農業名所めぐり

J A 東京中央企画・発行 首都の食を支
えた農の意外な歴史、産物。そのゆかりの
地80ヶ所を訪ねるガイドブック。

・2550円

江戸・東京 ゆかりの野菜と花

J A 東京中央企画・発行 世界最大の都
市江戸は、農業の育成都市。その人と風
土と誕生した品種を物語で綴る。

・2550円

江戸・東京 暮らしを支えた動物たち

J A 東京中央企画・発行 江戸中期に芽
生え明治から本格化した近代畜産の発信地
は東京。人々の努力を社会史とともに。

・2548円

巨大都市江戸が 和食をつくった

渡辺善次郎著 日本一豊かだった江戸前
海と近郊農業の発展を支えられた江戸・東
京の食事情形成史。

・1370円

なにわ大阪の 伝統野菜

なにわ特産物食文化研究会編著 「食い道
楽」の町として栄えた大阪は多様な野菜産
地。一時消えた伝統野菜を見直す。

・2750円



自由闊達な寺子屋の子どもたち。左上の子はおし
おきをうけている(鎌形蕙齋『近世職人尽絵詞』)

然と人間の関係(村おこし)と人々との関係(人づくり)に焦点を合わせて、読み切りの2000余の物語にまとめたものです。

江戸時代の生き方からどのような「未来への指針」を得られるでしょうか。いや、そう急ぐ必要はありません。気楽に江戸にタイムスリップして江戸庶民の群像と在所のリーダーたち、そして全国を歩いて各地の情報を交流させたバイオニアたちと、親しくつきあってほしいと思います。文章は

さて、最後にひとこと。明治以後の中央集権の国家運営は、教育の面にとりわけびしく現れま

「総合的な学習の時間」がそれです。そこでどのような授業をするかは個々の学校にまかされています。もう一つは調べ学習。暗記ではなく自分の頭で考えをまとめていくことの重視です。そしてもう一つ。地域に密着した教育が推奨されています。そのためには地域で活躍している一般の人を招いて授業を展開する「地域の先生」の制度もつくられました。

者」の章。いま待望される地域リーダーの姿がここにあります。

開発や産物・慣習や行事、人物や事件が、地域に即して、各県40〜50の物語として語られていますから、歴史を勉強するのではなく、江戸時代の人々や自然に、さまざまな角度から触れ合うことができます。

江戸の文化については、庶民のしたたかさやユーモアを伝える落語や江戸小咄や川柳の本はたくさん出ています。ですが、「江戸時代人づくり風土記」は、そうした風流や滑稽ばなしを集めたものではありません。江戸時代270年のあらかたを平和に自立して暮らした庶民の生き方を、自然と人間の関係(村おこし)と人々との関係(人づくり)に焦点を合わせて、読み切りの2000余の物語にまとめたものです。

江戸時代の生き方からどのような「未来への指針」を得られるでしょうか。いや、そう急ぐ必要はありません。気楽に江戸にタイムスリップして江戸庶民の群像と在所のリーダーたち、そして全国を歩いて各地の情報を交流させたバイオニアたちと、親しくつきあってほしいと思います。文章は

郷土の暮らしが 若い世代を惹き付ける

ないようですが、

ところが、教育の荒廃に

危機感を持った文部科学省

は、とうとう教科書を使わ

ない課目をつくりました。

「総合的な学習の時間」が

それです。そこでどのよう

な授業をするかは個々の学

校にまかされています。も

う一つは調べ学習。暗記で

はなく自分の頭で考えをま

とめていくことの重視で

す。そしてもう一つ。地域

に密着した教育が推奨され

ています。そのためには地

域で活躍している一般の人

を招いて授業を展開する

「地域の先生」の制度もつ

くられました。

くられました。

- 「江戸時代人づくり風土記」全50巻
- 都道府県別編集 B5判、上製 平均380頁
- 【各道府県版】岩手・神奈川・長野・京都・福岡 各3500円、他各4500円
- 【特別編集版】東京編「大江戸万華鏡」CD・大江戸四季の音巡り 付10000円、沖縄編CD・沖縄を聴こう(沖縄民謡) 付7000円、大阪編大阪の歴史 10000円
- 【索引巻】「近世日本の地域づくり」2000のテーマ 5000円



地域を調べる、地域の昔を調べて明日を考える学習には、この全集が役立つにちがいありません。

驚いたことに「江戸時代人づくり風土記」は学校の先生を養成する教育系の大学でも使われています。京都教育大学教授の吉村文男先生が書かれた文章を引用して終わりといたします。

「学生それぞれに(この全集の)自分の出身県の巻を持たせて、その報告を中心」に授業を進めた「江戸時代」としても、長い日本の歴史からすればほんの昨日のことなのだが、変化の速い今日ではもうその時代の跡を実際に見ることはほとんど不可能である。それ

だから学生たちにとっては(この全集に)出てくる事柄はまったくはじめて出会うことばかりであったようだが、それだけに彼らにとつてその授業は「おもしろかった」というのが共通の感想だった。「江戸時代を現代と結んで、行き詰まった現代の学校教育に風穴をあけると期待されている」「総合的な学習」のプランを、江戸時代を現代と結んで参加学生がつくるというところまで進められれば、と考えている(「地域と歴史と農業を結ぶ総合的な学習」近代社会の行き詰まりを超える道」出版ダイジェスト'99・11・20号、本紙11面に抄録)。

日本農法の 水脈

徳永光俊著 賢治、農民芸術、柳宗悦、工芸文化」に相通じる江戸期農民の「農芸」の世界、日本人の自然観や地域社会の源流を農書にみる。日本農書全集収録文献検索リスト付。

・1840円

日本農法の 天道

徳永光俊著 故き農書を温め直し循環型社会の原理を知る「農・食・医・育」の「和学」日本的いのちの創造から伝統と現代科学の統合を目指す。

・1850円

農書の時代

古島敏雄編著 日本民衆の古典「農書」の生まれた時代背景を多様な側面から探求した入門書。

・1260円

近世の日本農業

岡光夫・三好正喜編著 近世農業生産力の高まりとそれを支えた農民のエネルギー、日本の農法確立の様子をリアルに紹介。

・1890円

日本の農耕

対話学習 守田志郎著、原田津解説 農民との対話で古代から明治まで農耕の歴史をたどり、農家の自然観・生活観に根ざした新しい日本史を構築。

・1850円

二宮尊徳

守田志郎著、大藤修解説 尊徳を農村における貨幣経済形成の先駆的体現者と批判的に評価した異色の評価。

・1850円